

(調査様式1)

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年3月14日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691200077
法人名	社会福祉法人 希望ヶ丘福祉会
事業所名	グループホーム みどりの風
所在地	鹿児島県霧島市横川町中ノ5645-1 (電話) 0995 (72) 9054
自己評価作成日	平成23年1月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kagoshima-kaigonet.com/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4691200077&amp;SCD=320">http://www.kagoshima-kaigonet.com/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4691200077&amp;SCD=320</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成23年1月26日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小規模多機能ホームと併設しており、利用者様同士が自由に行き来出来る環境にあるため、交流を活発に行っている。これまでの暮らしを大切にしたい生活を送って頂くために、料理や裁縫、梅干しや味噌作り、菜園での野菜作りを行っている。毎日の活動も日によって、プログラムを変えるなど、生活がマンネリ化しないように工夫している。おやつは手作りにこだわっており、利用者様と一緒に作る事もある。季節に応じた行事も取り入れている。利用者様は事業所周辺の方が多いため、ドライブを取り入れたり、空き家になっている利用者様宅で日中、過ごす取り組みも行っている。ボランティアを積極的に受け入れており、小学校や中学校の子供たちの福祉体験学習の受け入れにも協力している。敬老会をご家族をお呼びし行っており、食事は職員、家族共同で作っている。認知症の啓蒙活動を地域公民館で講義や寸劇を取り入れて実施している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

霧島連山を望む自然に囲まれたホームは、小規模多機能ホームとの併設でゆとりの空間と自由な交流が出来ている。職員はどちらのホームにも入る勤務システムで利用者情報の共有と支援、理念の実践に日々取り組んでいる。利用者の培ってこられた生活力を日常や季節行事でも活かせるように働きかけ、楽しみややりがい、利用者の自信、機能の維持、向上となっている。

地域との交流も活発であり、運営推進会議の機能も十分発揮されている。認知症の啓蒙活動も職員も一緒に積極的に取り組んでいる。

緊急時や看取り体制、勤務への配慮もあり、職員の働く意欲となっている。

ふるさとで生きるを大切に利用者、職員が明るく、前向きなホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念に基づきながら、実践に向けて、日々取り組んでいる。毎朝、ミーティングにて理念を復唱している。	朝礼での復唱やミーティング等で実際の事例を通して振り返りを行っている。新人職員も理念を覚えており、実践において意義と役割を意識するようにその都度言葉かけを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運動会やグランドゴルフの集まりに参加している。又、利用者様の自宅へ利用者様をお連れし、日中、過ごす取り組みを行っている。地域の方が食事作りにボランティアで来て頂いた。	周囲に民家が少ない環境であるが 保育園、小中学校の運動会への参加も恒例となり、親子会のボランティア受け入れ等々と交流の機会が多い。運営推進委員、管理者、職員の働きかけで地域と良い関係作りができています。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域で認知症セミナーを寸劇や講義形式で開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回実施している。日々の活動や課題などを報告し、助言して頂いている。	会議は定期的実施されており、利用者の参加もあり時に行事の感想報告を行っている。利用者状況や地域交流の取り組みと協力依頼や職員の勤務状況についても意見交換が行われている。現在、SOS徘徊ネットワークの組織作りの協議も進めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議を活用し、定期的に情報交換を行っている。また、市役所の福祉課に出向き、施設の現状を報告し助言を頂いている。	行政と連携し、認知症サポーター養成講座や事業所見学会、福祉体験学習の受入等を行っている。認知症見守りネットワークの構築に向けて協力し進めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の勉強会を行い、身体拘束の禁止となる事例を学び、身体拘束をしない介護を実践している。又、基本的に居室や玄関の施錠は基本的に行っていない。夜間は、玄関の施錠を行っている。	全ての職員は職員会議や法人勉強会等で身体拘束による弊害を学んでいる。身体拘束排除の方針であり、具体的対応や言葉かけの話し合いも行っている。夜間のみセンサーベッド利用で危険を防止している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会を行い、職員の意識統一を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立支援事業については説明はしていないが、成年後見制度の学習は職員会議で行った。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用前に重要事項説明を渡し、項目に沿って、説明をさせて頂いている。疑問点等、その都度、説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の声や苦情は、運営推進会議の委員の方に、報告させて頂いている。又、職員には朝礼や職員会議にて報告を行っている。	契約時に相談対応窓口や運営推進会議の取り組み内容の説明を行っている。毎月広報誌にてホームの生活状況を知ってもらう中で、カンファレンス、行事、来所の際に家族、利用者の意見・要望を伺うようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は、日々の業務の中やミーティングを通じて職員の意見や提案を聞き、改善できるように努めている。施設での状況は、毎日運営者にも報告している。	管理者は日ごろから話しやすい職場環境を整えている。ケアの在り方等はまず、否定しないで職員同士で確認しあい、ホームの方針を決めている。職員の前向きな思いを大切に、意見、アイデアにすぐ対応し活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員一人一人が掲げている目標を確認し、職員の能力に応じた助言を行うようにしている。年に1回は給与の見直しも行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部の研修会や内部の研修会を通じて、資質向上を図る機会を設けている。外部の研修も各職員が参加出来るように配慮している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣のグループホームと交流を行っている。グループホーム連絡協議会を通じてネットワークの構築、勉強会の機会を持っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り、利用者本人と話し、相手の思いや不安を聞くように職員一同心がけている。居室で話を聞いたりする。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族から利用者の生活歴や家族の要望を聞くようにしている。又、面会時にも、相談を受けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅サービスを受けながら、自宅で生活が出来ないか、まず検討し、在宅での生活が無理であれば、施設入所になることを説明している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、介護者という立場ではなく、共に生活し、支えあう関係を大切に、味噌作りや漬物、季節の料理等、利用者から教えて頂くという姿勢をもって、接している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と家族との関係を大切にし、家族と過ごせる時間を大切にしている。外泊は、家族が望むのであれば、日数を制限してはいない。家族の方に、夏祭り・敬老会・焼肉会・文化祭に参加して頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで生活してきた自宅を使用し、日中、過ごす試みを行った。その際に近所の方にも足を運んで頂き、交流を図っている。又、地域のゲートボールや行事にも、参加し、交流を持っている。	ご家族、ご近所、ボランティアの方々の協力で利用者の自宅で懐かしく、楽しく過ごしていただく「ふるさと交流」や地域の方との触れ合いを生活に取り入れる支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症のレベルの高い方が、生活の中で孤立しないように、トラブルが起こる前に間に入るようにしている。茶話会を通じてみんなで話し合いの機会を持っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	機関紙の発送や年賀状等で、交流を続けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の生活の中で出てくる何気ない言葉や表情を観察し、メモに残している。言葉で表現されない利用者には職員の観察から思いを代弁できるようにしている。	職員は 利用者の担当者を定め、個々のしぐさや特徴、できることできないこと等、職員自身の親だったらの視点で寄り添い、思いや意向の把握に努めている。時には家族に面会を依頼している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談や入所後の面会時に把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日を通しての観察、職員間の引継ぎ、記録の活用等、利用者の状態を把握するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画書作成は入所前に家族から情報収集を行い、その後は職員から情報収集を行い、計画書を作成している。また、サービス担当者会議等を通して、家族との情報交換を行っている。	入所時に詳細なアセスメントを行っている。計画には担当職員を中心に普段の気づき、観察記録の活用で意見の反映がされている。毎月モニタリングを行い、課題やニーズにおける達成状況と評価を行っている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は、一日を午前・午後・夜間と分け、時間帯ごとに記録を記入している。日々の様子の記録は介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や外泊については、特に制限を設けず、家族の都合に合わせて、日数等の制限はしていない。家族からの希望や要望に柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れを積極的に行い、地域との交流を行っている。希望に応じて、自宅に連れて帰り、地域との繋がりが途切れないようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医との関係を大切にし、それぞれの医療機関を定期受診している。又、変化がある時はその都度、受診や往診等、対応して頂いている。	かかりつけ医の通院、受診は家族支援だが利用者の状態に応じて職員が付き添っている。看護師2名が勤務しており情報提供や連携を密に行い、受診ノートで職員全員が情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康状態等についての助言を看護師から受けている。隣接する特養等の看護師にも気軽に相談し、連携を持っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院してもすぐ退所としないようにしている。入院前に主治医や家族と退院の可能性を検討し、退院後の受け入れが出来るように調整している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のケアについては、ご家族及びかかりつけ医を交えて話し合いを行っている。医療面での関わりが多くなり、事業所での対応が困難になる場合は事前に説明し入院の場合もある。	利用開始時に説明を行っている。状態の変化に応じて利用者、家族と話し合い、かかりつけ医との連携・方針、事業所職員のバックアップ体制の意思確認を行い、チームとして支援に取り組んでいる。終末期は夜勤二人体制で支援を行った事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防職員を講師にし、訓練を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災の避難訓練は、夜間想定・日中想定として年2回行っている。</p>	<p>年2回、消防署立ち合いで防災訓練を実施している。緊急通報システム、煙探知機、消火器を備え、隣接ホームとの連携体制はとれている。運営推進会議での呼びかけ、地域防災の取り組みを進めている。</p>	<p>スプリンクラーの設置も決定しており、地域の協力体制を得る方法を検討しているとのこと。今後は更に地域の防災訓練の参加と連携を期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は個々の尊厳を大切にしたい言葉掛けや対応を行っている。馴れ合いの関係になりすぎて、言葉が崩れないように注意をしている。	管理者は、職員への指導を日頃から行っており、職員も利用者に応じた言葉使いや対応を話し合い、接している。できるだけ利用者の意思を引出し、添うように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の能力に合わせた対応を行っている。個別に面談して気持ちを汲み取れるようにし、自分で気持ちを表現できない方にも、日頃の生活の様子から思いを汲み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースは大切にしているが、職員側の都合で入浴の時間を変えたりすることがある。行事等の予定が入っている時は事前に説明し、了解して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	散髪は行きつけの美容室に行ける事も説明しているが、職員で対応する場合が多い。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえやお箸配り、配膳・下膳・お茶碗洗い等、利用者の力を活かしながら、一緒に行っている。	利用者と一緒に毎月の献立を決めている。自然と調理の下ごしらえや調理を一緒に行う関係づくりが培われている。利用者で小分け、配膳、下膳等出来ることをそれぞれされている。お味噌も利用者の手作りである。おやつも利用者の手伝いをもらい手作りで楽しみに繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を記録に残し、食事量が少ない時は栄養補助食品等を出している。水分は一日1500CCの摂取目標に水分を摂取してもらっているようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自力で出来ない利用者には、職員が必要に応じ支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し、利用者に応じた声かけを行い、誘導している。オムツを使用している方には排尿状態に応じて、交換している。	できるだけオムツを使用しない、基本的にトイレでの排泄の支援を行っている。排泄チェック表を活用し、リズムの把握を行い、表情やしぐさからさりげない誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維のある食事、おやつを提供に心がけ、水分も取って頂く様にしている。又、リハビリ体操も取り入れ、体を動かす機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回以上入浴できるように実施している。入浴の希望時間は本人になるべく合わせているが、業務の都合で出来ない場合もある。その場合は事前に説明を行っている。	入浴は利用者ごとに浴槽のお湯を入れ替え、入浴剤を各種揃え、季節に合わせてしょうぶ湯・ゆず湯・バラ湯を楽しんでいる。また時々温泉にも出かけている。毎日や夜の希望にも対応している。入浴を好まれない利用者には声掛け、清拭、足浴と清潔の保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝は自由にしてもらうようにしている。夜間は就寝時間は設けていない。眠れない方は、リビングにて、職員と会話を持っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を基に利用者の薬の把握を行っている。薬の仕分けは職員が交代で、二人で確認しながら、薬剤情報を基に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力や生活歴を活かした役割、楽しみが出来るように個別の状況に応じた支援を行なっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	洗濯物を干したり、庭いじりをしたりと外で過ごす時間を作っている。又、遠い所への外出を時々実施している。	毎月、四季毎の行事外出に これまで慣れ親しんだ生活習慣を日常に活かし、梅干し漬け・畑づくり・味噌造り・そば打ち等、屋外活動を行っている。その日の気分で散歩や稲刈り見学、ドライブや図書館の読み聞かせ等、めりはりのある支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	基本的に、預かり金は金庫で管理している。買い物などでお金が必要な時は、本人に渡し、職員と一緒に買い物に出かけている。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	希望に沿って、職員が仲介に入り、家族への電話は自由に出来るようにしている。手紙を出したい方は切手を購入し、自由に手紙のやり取りが出来るようにしている。		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	室内には、季節を感じていただけるような草花を飾るようにしている。居室やトイレのドアの開閉時に音がしていたが、スポンジのクッションをつける工夫をしている。	大きな木のテーブルをリビング中央に配し、そこから仏壇のある畳の間や食堂が見渡せる。朝の換気や加湿器、照明などで空調や明るさを調整している。季節の花々やこたつ等で季節感や生活感を工夫し、過ごしやすい生活環境に気を配っている。窓からは霧島連山が見渡せ、季節の移り変わりを感じることができる。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	小規模多機能ホームと併設しているので、気分転換を図りたいときには小規模のリビングに移動して、マッサージ機やソファに座ることが出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染みの品物を持ち込んでも良いということを説明している。又、部屋は椅子やテレビを持ち込んでも良いことを説明している。	居室入口には利用者の写真が貼ってあり、自分の部屋を確認しやすいように配慮している。箆笥・ベッド・加湿器・布団は備え付けであるが 淡い色のカバーを使用するなど温かい雰囲気作りに工夫している。ぬいぐるみやご家族一緒の写真も多く飾られ、愛用品の持ち込みなど居心地良く過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分からなかったり、失敗しても、決して非難せず、利用者の方が失敗したことを恥ずかしくないようにフォローをしている。自信を失うようなことがないように配慮している。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない